

個性と創造性あふれる

「ココロパワー・カラダパワー いわて」

を目指して

(案)

平成 年 月

岩 手 県

<目 次>

第1章 基本的な考え方

1 策定の趣旨	1
2 戦略の位置付け	2
3 目指す姿	3
4 戦略の方向性	4

第2章 戦略

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

1 ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催の成功と大会後の レガシーを見据えた取組の推進	5
2 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた 地方が主役となる取組の推進	6
3 ポップカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進	6
4 アール・ブリュットに対する県民の理解増進及び活動支援	7

戦略2 県民の心を豊かにする文化芸術の振興

1 文化芸術に親しむ機会の提供や文化芸術を生かした地域づくりの推進	8
2 未来の文化芸術を担う人材の育成	9
3 文化芸術活動を支える環境の整備	9
4 世界文化遺産の価値や理念の発信、普及	10

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

1 一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進	11
2 競技力向上とトップアスリートの育成	12
3 スポーツ活動を支える環境の整備	12
4 プロスポーツチーム等との連携やスポーツツーリズムの振興による 地域活性化の推	13

第3章 ライフステージごとの姿

1 乳幼児期	14
2 青少年期	15
3 成人期	15
4 高齢期	16

第4章 戦略の推進

1 推進体制	17
2 多様な主体との協働	18

第1章 基本的な考え方

1 策定の趣旨

平成21年に策定した「いわて県民計画」は、長期的な視点に立った取組を進めることにより、県民一人ひとりが、生き生きと働き、岩手で安心して暮らし、自分の希望に向かって行動することにより、希望あふれる岩手を実現していくことを目指しています。

これまで県では、「いわて県民計画」に基づき、「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現を目指して、文化芸術やスポーツライフの振興に取り組んでいますが、本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、これまで受け継がれてきた伝統文化の継承が困難になるなどの課題が顕在化しています。

一方、世界や日本全体の潮流を見ると、グローバル化の進展により社会経済情勢が大きく変化する中で、これまで受け継がれてきた豊かな自然、地域性あふれる生活文化・伝統文化、人と人とのふれあいなど、ローカルな視点への関心が高まるとともに、従来の価値観に捉われない多様な考え方が表現され、受容される社会的土壌が広がってきています。

また、価値観や幸福感についても、物質的あるいは経済的な豊かさのみが追求される段階から、心の豊かさが尺度の一つとして尊重され始めるなど、各ライフステージにおける文化・スポーツの充実に対するニーズの多様化がみられます。地域が持つ充実した環境やそれらを守り育む人といった多様な地域資源が、地域経済ひいては日本全体の成長の切り札の一つとして注目されています。

岩手には、平泉などの歴史的文化遺産や、宮沢賢治・石川啄木に代表される文学世界、神楽などの伝統文化、釜石のラグビーや二戸のカーリング、岩手のホッケーなどにみられる地域スポーツの風土、新渡戸稲造・後藤新平・大島高任などの先人の思想と行動、県民の真面目さや勤勉さなど多様なソフトパワーの源があり、そこに住む人の心と調和した真の豊かさがあります。

岩手の文化・スポーツの未来には、ラグビーワールドカップ2019™の釜石開催や「平泉の文化遺産」の拡張登録、「北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）」の世界遺産登録に向けた取組など、大きな可能性が広がっています。こうした機会を生かし、さらに魅力ある岩手を実現していくためには、岩手のソフトパワーを国内外に広く発信していくとともに、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて私たちが得た、県勢の躍進による競技力の向上や県民総

参加での“おもてなし”などの貴重な遺産（レガシー）を、次の世代につなげていくことが求められています。

文化・スポーツには、岩手の未来を切り拓く力があります。今、県内では、若者・女性による伝統文化活動やスポーツ分野での世界的な活躍、次代を担う若者たちによる新しい文化芸術の創造など、様々な場面で若者・女性の活躍と文化・スポーツ振興の共振性がみられます。文化・スポーツを通じて、一人ひとりや集団、地域がつながりを広め、深めていくことによって、相互の新たな連携を促進するとともに、共に努力し、達成感を分かち合うことや、地域の誇りを高め、愛着を深めるなど、地域社会の一体感や活力の向上につながっていきます。

さらに、文化・スポーツが有する多面的価値により、個人の内面的な充実に加え、交流人口の拡大による観光産業の振興やスポーツ産業、コンテンツ産業(*)など幅広い分野への波及効果が期待されます。このような取組により、東京一極集中の是正をはじめとする東京と地方の関係を再編する起爆剤の一つとなり得る可能性を持っています。全ての県民が日常的に文化・スポーツ活動に親しみ、岩手の豊かな時間と空間を体感できる環境づくりを進めていくことにより、一人ひとりの個性が輝き、創造性が発揮される社会の実現が期待されます。

この戦略は、文化・スポーツを巡る様々な潮流を的確に捉え、平成33年度までの概ね5年間における岩手県の文化・スポーツ振興のための主な方策を示すものです。

(*) 映像（映画、アニメ）、音楽、ゲーム、書籍等の制作、流通を担う産業の総称

2 戦略の位置付け

この戦略は、「いわて県民計画」第3期アクションプランの政策推進目標の推進やその先のあるべき未来の姿の実現に向け、平成33年度までの概ね5年間に、県として戦略的に取り組む文化・スポーツ施策の指針であり、「岩手県ふるさと振興総合戦略」や「岩手県文化芸術振興指針」などの関係計画等を踏まえたものです。

3 目指す姿

この戦略の推進により目指す姿は、次のとおりです。

《目指す姿》

個性と創造性あふれる「ココロパワー・カラダパワー いわて」



文化・スポーツは、日常生活に潤いや活力を与えるだけでなく、私たちが抱く夢や希望を実現し、自己表現のツールとして欠くことができないものです。また、一人ひとりの個性と文化・スポーツが有する多面性や広がりや融合することにより、人と人、人とふるさとのつながりという社会的な力となるとともに、観光・スポーツ産業・健康医療産業・文化芸術産業などの経済的な力を生み出す可能性を有しています。

こうした文化・スポーツのパワーにより、創造性にあふれ、多様な個性を受容し尊重する岩手をつくっていきます。

4 戦略の方向性

この戦略では、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて私たちが得た自信や県民意識の高まりなどの遺産(レガシー)を岩手の未来に継承していくとともに、豊かな自然や地域性、人と人との絆などを基盤に育まれてきた文化・スポーツを発展させ、さらには新しいジャンルへの挑戦へと拡張させていくため、県民運動的な盛り上げを図りながら、第2章に掲げる「3つの戦略」を推進していきます。

戦略1として「国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組」、戦略2として「県民の心を豊かにする文化芸術の振興」、戦略3として「県民が元気になるスポーツの振興」の3つを柱に、政策的にこれまで未着手であった施策や、文化・スポーツと地域づくり、県民の健康など複数の分野にまたがる施策、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、多くの県民が関わり楽しむことができる施策など、これまで実施してきた文化・スポーツ施策の充実はもちろん、地域の一体感の醸成や持続的な地域づくりの原動力となる施策にも取り組んでいきます。

また、第3章では、より身近に文化・スポーツを感じていただき、県だけではなく、市町村や関係団体等が一体となって目指す姿を実現していくため、「乳幼児期」「青少年期」「成人期」「高齢期」それぞれのステージごとの行動指針を示します。

さらに第4章では、この戦略の推進体制や多様な主体との協働の進め方などを示します。

第2章 戦略

概ね5年後の目指す姿を実現するため、今後展開する3つの戦略と、戦略に沿って重点的に実施する12の施策は、次のとおりです。

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

これまで県では、地域の活性化や一体感の醸成に向け、岩手の様々なソフトパワーを県民が共有すべき“岩手の誇り”として磨き上げ、発信してきました。また、今般の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を経験して生まれた自信、地域への誇り、人と人とのつながり、心の豊かさは、岩手の未来をつくる礎ともなりました。

今のタイミングを好機と捉え、国体・大会のレガシーを継承するとともに、2019年のラグビーワールドカップ™や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた交流人口の拡大、ポップカルチャーやアール・ブリュットの振興など、従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組を積極的に推進していきます。

【重点施策1】

ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功と大会後のレガシーを見据えた取組の推進

- ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向け、官民からなるオール岩手での推進体制を構築し、釜石市とともに企業、関係団体等と連携のうえ同大会の開催準備を進めます。
- ラグビーワールドカップ2019™出場チームに係る公認チームキャンプ地等の県内誘致を関係市町村、競技団体等と連携のうえ推進し、交流人口の拡大や国内外に向けた地域の魅力・情報の発信を図ります。
- ラグビーワールドカップ2019™や様々な国際大会などで今後の活躍が期待できる選手の発掘・育成を行うとともに、子どもや女性を含む多くの県民がラグビーに親しむことができる普及活動を展開し、大会成功に向けた機運醸成を図ります。
- ラグビーワールドカップ2019™釜石開催を通して培われたスポーツ環境を生かし、県民のスポーツ活動への更なる参画を促進し、地域に根ざしたスポーツ振興を進めます。

【重点施策2】

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた地方が主役となる取組の推進

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ地誘致を関係市町村、競技団体等と連携のうえ推進するとともに、市町村のホストタウン登録を支援・推進し、交流人口の拡大や国内外に向けた地域の魅力・情報発信、市町村の国際化を促進します。
- 「復興五輪」を理念に掲げる東京オリンピック・パラリンピック競技大会の各種PR活動を組織委員会や東京都、国、経済界協議会等と一体となって展開し、県内における開催機運の醸成を図るとともに、国内外に本県の復興の姿を広く発信します。
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの一環として、岩手の文化の魅力を国内外に発信するとともに訪日外国人に岩手の文化を紹介するイベントを実施し、観光など産業振興につなげます。
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会への参画等により得られた経験やつながりを礎に、国内外とのスポーツ、文化、人的交流を進めます。

【重点施策3】

ポップカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進

- 「いわて若者文化祭」で映像、ファッション、SF等のイベントを併催するなど、新しい切り口による文化芸術の振興や国内外への情報発信を図ります。
- マンガの舞台となった地域への聖地巡礼や観光ツアーの造成、位置ゲーム(*1)利用者の本県歴史観光スポットへの誘客、「怪フォーラム(*2)」の開催など、マンガや妖怪文化、ゲームを活用した情報発信や交流人口の拡大等を図ります。
 - (*1) 携帯電話端末に付随している全地球測位システムを利用したゲーム
 - (*2) 世界妖怪協会が「怪遺産」（妖怪文化の普及に貢献した地域）として認定した鳥取県境港市、徳島県三好市山城町、本県遠野市が所在する3県によるそれぞれの伝承文化を地域の活性化へ生かすことを目的としたイベント
- 年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会の創出に向け、若者を中心として自由な発想による岩手発の新しい「超人スポーツ(*)」を考案し、県内や国内外へ広く発信します。
 - (*) 最新の研究分野である「人間拡張工学」に基づき、スポーツと文化、科学技術の融合により人間の能力を拡張し競技する新しいスポーツ

- 文化芸術活動拠点となるアートセンターの整備など、既存の枠組みにとらわれない創造性あふれる発想が生まれる環境づくりを進めるとともに、アート展示やイベント、ワークショップの開催など多様なチャンネルの提供により、県民の文化芸術活動を支援します。

【重点施策4】

アール・ブリュットに対する県民の理解増進及び活動支援

- 県内のアール・ブリュット(*)作品を県立美術館や民間施設等で展示・保管するとともに、デジタルアーカイブ化しホームページ等で世界に発信するなど、アール・ブリュットの理解促進及び作品の保護を図ります。
(*) 「生の芸術」と訳され、美術教育や美術的なスタイルからは何の影響も受けていない、全く個人的かつ独創的な表現
- 商店街のショーウィンドウへのアール・ブリュット作品の展示やアール・ブリュットを活用したポスター等の掲示など、県民がアール・ブリュットの価値を享受し、まちなかにアール・ブリュットが溶け込んでいくアール・ブリュットのまちづくりを進めます。
- 県内におけるアール・ブリュットの更なる振興を図るため、アール・ブリュットに関する相談支援、情報発信、人材育成等への対応を一元的に実施する拠点の設置を検討します。
- アーティストの掘り起しやアトリエ等創作活動の場の確保、著作権等の権利擁護を図るなど、全国で先進的に活動している他地域とも連携を図りながら、アール・ブリュットを優れた作品として世に出していくための様々な支援を行います。

戦略2 県民の心を豊かにする文化芸術の振興

本県は、平泉や橋野鉄鉾山の世界文化遺産をはじめ、数多くの歴史的文化財や民話、神楽、祭りなど多様な伝統文化に恵まれています。また、宮沢賢治や石川啄木、舟越保武、萬鉄五郎など多くの文化芸術の先人たちを輩出する風土もあります。

こうした岩手の文化的な魅力を生かし、県内各地での文化芸術イベントの開催等によりあらゆる世代の県民が文化芸術に親しむ機会を提供するほか、文化芸術団体と児童生徒との交流等を通じた未来の文化芸術を担う人材育成や、文化芸術コーディネーターの配置等による地域の文化芸術活動の支援などを推進していきます。

世界遺産の価値、理念など地域の宝である文化財の魅力や岩手が誇る文化芸術の力で、ふるさとへの理解や愛着が深まる地域づくりを進めていきます。

【重点施策1】

文化芸術に親しむ機会の提供や文化芸術を生かした地域づくりの推進

- 岩手芸術祭巡回展の拡充開催やまちなか、農山漁村での展示会、体験イベントの開催など、年齢、性別、障がいの有無に関わらず、県民が身近な場所で手軽に文化芸術活動を発表・鑑賞する機会を創出します。
- 全国規模の文化芸術イベントを開催し、岩手の文化芸術を全国に発信するとともに県民の文化芸術活動への関心や参加の機運を高めます。
- 文化財ガイドの養成や郷土芸能の鑑賞・体験イベントの実施など、地域の歴史・文化芸術を生かした地域おこしを推進します。
- 被災地をはじめとする県内各地の祭りや伝統行事、伝統芸能など伝統文化を保存、継承する取組を支援し、地域コミュニティの再生・強化につなげます。

【重点施策2】

未来の文化芸術を担う人材の育成

- 国内外の優れた文化芸術を鑑賞する機会や来県する一流の芸術家と交流する機会を提供するなど、子どもたちが文化芸術への理解を深める取組を推進します。
- 郷土芸能団体をはじめとする文化芸術団体と児童生徒との交流や岩手芸術祭と岩手県高等学校総合文化祭との連携等を通じた後継者育成を推進します。
- 文化芸術関係者を対象としたアートマネジメント研修を開催し、多様な専門領域で活躍する人材を育成します。

【重点施策3】

文化芸術活動を支える環境の整備

- 県文化芸術ホームページ「いわての文化情報大事典」のデータベース機能を高めるとともに、SNSや各種情報誌等を積極的に活用するなど、文化芸術情報の発信を強化します。
- 各広域振興圏に設置した「岩手県文化芸術コーディネーター」の周知や体制強化を図るなど、文化芸術活動について文化芸術団体や地域住民等が気軽に相談し、積極的に活動できる環境を整えます。
- 障がい者を対象とした芸術作品創作のワークショップの開催やアトリエ等創作活動場所の確保、サービス事業所への指導者派遣など、障がい者が気軽に創作活動を行う機会を確保します。

【重点施策4】

世界文化遺産の価値や理念の発信、普及

- 「平泉の文化遺産」「橋野鉄鉾山」や世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）」が有する価値及び理念について、県内外に広く発信・普及する文化芸術イベントを開催します。
- 「平泉の文化遺産」について理解を深め、適切な保存を行うことにより将来の世代へ継承していくため、総合的な学びの場として、ガイドンス施設の整備を検討します。
- 毛越寺や橋野鉄鉾山など、これまで紹介が難しかった世界遺産の当時の模様を現実的に体験できるよう、VR(*)技術の活用を検討します。
(*) バーチャル・リアリティ（仮想現実）の略。コンピューターを用いて人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかのように感じさせること。
- 小中学校において世界遺産授業を継続して実施するなど、世界遺産の価値や理念を理解する人材を育成します。

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

本県では、平成28年に希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催され、県内の多くの市町村で競技が行われました。また、今後、平成31年には、ラグビーワールドカップ2019™が釜石市で開催され、県民のスポーツに対する機運がこれまでになく高まることが期待されています。

これらのイベントを一過性に終わらせることなく、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、県民一人ひとりがより身近にスポーツを楽しむことができる環境を整備するとともに、競技力の更なる向上や障がい者を含めたトップアスリートの育成などにより、スポーツの魅力を実感し県民の心と体が元気になるスポーツ振興を推進していくほか、プロスポーツチーム等との連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化も推進していきます。

また、スポーツによる障がい者の更なる社会参加を促進するため、障がい者スポーツを一層推進していきます。

【重点施策1】

一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進

- 幼児から高齢者まであらゆる年代で運動・スポーツへの参加機運の醸成を図る県民運動を展開し、運動習慣の定着化と生活習慣病・介護予防等につながる健康づくりを支援します。
- 市町村との連携や相互のネットワーク化等により総合型地域スポーツクラブの活動の活性化を図り、県民が障がいの有無・年齢・体力・競技レベルに応じて、地域で気軽にスポーツに取り組む環境を構築します。
- 幼稚園や小学校等と連携し、スポーツ医・科学の視点を取り入れた遊びやレクリエーションを通じて幼児・児童の正しい体の動き方や運動習慣の定着を図るなど、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむための基礎づくりに取り組みます。

【重点施策2】

競技力向上とトップアスリートの育成

- スポーツ関係団体やアスレティックトレーナー(*)等の専門家と連携し、障がい者を含めたトップアスリートの育成や活動を支援することにより、オリンピックやパラリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指します。
(*) スポーツ現場で選手が受傷したときの応急処置や傷害の評価、復帰までの手順を考えたり、傷病の予防のために働くスタッフ
- 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会により高められた本県競技力の次世代への継承に向け、国体・大会で確立された一貫指導体制等を維持しつつ、継続的に指導者研修会やトップコーチの活動支援を行うなど競技力向上を担う指導者を育成します。
- スポーツ医・科学を活用した取組の充実と普及を図り、本県アスリートの強化につなげます。
- アスリートの県内就職を支援するなど、アスリートの招へいや定着を進めるとともに、各競技団体等と連携しながら、本県全体の競技力を維持発展させるための取組を推進し、県内スポーツの競技力向上を図ります。

【重点施策3】

スポーツ活動を支える環境の整備

- スポーツ推進委員の研修を充実させ、地域スポーツ活動等のコーディネーターとして育成・活用するとともに、地域のニーズを踏まえたスポーツ活動等の普及・活性化を図ります。
- 国体・大会を契機として養成された地域の指導者やボランティアが国体・大会後も地域スポーツ団体等において生涯スポーツを推進する立場で活躍できる取組を推進します。
- 障がい者スポーツ推進組織の設立や障がい者スポーツ指導員・スポーツボランティアの養成、講演会・スポーツ教室・競技大会等の開催に向けた支援を行うなど、障がい者スポーツの一層の推進と理解促進を図ります。
- スポーツを通じた県民の健康づくりと障がい者を含めた選手や指導者の育成及び県内スポーツの競技力の向上を効果的・効率的に図ることができるよう、スポーツ医・科学機能の拠点の設置を検討するなどスポーツの環境づくりを進めます。

- 多くの県営体育施設が老朽化している現状や県内の体育施設の整備状況を踏まえつつ、プロスポーツを開催できる施設や県民がスポーツに積極的に取り組むことができる施設の整備など、県の体育施設の在り方を総合的に検討します。

【重点施策4】

プロスポーツチーム等との連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化の推進

- プロスポーツチーム等との連携による学校や地域におけるスポーツ教室、スポーツイベント等の活動を、協賛企業や市町村とともに推進し、地域とチームの一体感を醸成します。
- プロスポーツチーム等の応援イベント等を盛り上げ、交流人口やスポーツビジネスの拡大、それに伴う地域の活性化を図ります。
- 県内のスポーツ資源と観光資源を活用・融合した地域スポーツの振興と地域の活性化を図るため、各種競技大会やスポーツ関連イベントを積極的に誘致する「いわてスポーツコミッション（仮称）」の設置を検討します。
- 豊かなスポーツライフの振興を目的としたスポーツイベントを開催し、県内外の人々との交流拡大や地域の活性化とともに、県民一人ひとりがスポーツに積極的に取り組める環境整備を図ります。

第3章 ライフステージごとの姿

ここでは、第2章の3つの戦略をもとに、県民一人ひとりのライフステージに着目し、それぞれのステージごとに見た期待する県民像を、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期の4つに分けて整理します。

県では、県民の皆さんに期待する県民一人ひとりの「ライフステージごとの姿」の実現に向け、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、あらゆる人々が文化・スポーツに関わり、親しむことができるよう、関係主体間相互の連携や情報共有を促進するとともに、第2章に掲げる3つの戦略に沿って総合的かつ計画的に施策を推進します。

また、県だけではなく、家庭や地域、企業など関係団体等が一体となって目指す姿を実現していくため、それぞれが果たすべき役割と具体的な取組の方向性のイメージについても示します。

1 乳幼児期

- 親や兄弟など家族とのふれあいや友達との遊びの中で、歩く、走る、跳ぶ、投げるなどのほか、聴く、話す、歌うなどの体験を通して生涯にわたる健全な心身の基礎を培います。
- 地域の自然に触れたり、祭りなどの伝統行事に関わったりすることで楽しさや嬉しさを感じながら、豊かな情操を養い、創造性や豊かな人間性を育みます。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none">◆ 親子で外遊びや運動に親しむとともに、子どもの「やってみたい」という感情を可能な限り尊重します。◆ 豊かな自然や芸術文化に触れる機会をつくれます。
地域、NPO等	<ul style="list-style-type: none">◆ 自治会など地域の組織を通じて、子どもたちが安心して元気に遊ぶことのできる場や、親同士の交流の場を確保します。
幼稚園、保育園	<ul style="list-style-type: none">◆ 集団での遊びや運動などを通じて、心身の発達の基礎をつくれます。◆ 歌うことや描くことのほか、地域の祭りなどへの参加を通じて、楽しさや嬉しさを体感させます。
企業	<ul style="list-style-type: none">◆ 保護者が家庭教育や地域活動に積極的に取り組める職場環境を整えます。◆ 様々な体験の場や機会の提供など、幼稚園・保育園の活動や家庭教育、地域活動への協力を行います。

2 青少年期

- 学校内外を通じて、興味・関心等に合った様々な文化・スポーツを、体験したり見て楽しんだりしながら、豊かな情操の涵養、体力の向上、健康の増進を図るとともに、仲間や友人との交流を深めます。
- 自ら進んで郷土の歴史、伝統文化、芸術などの多様な文化に触れ、体験することを通じて、楽しさや感動、精神的な安らぎや喜びを感じるなど、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培います。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none">◆ 子どもの主体性を尊重し、様々な活動への参加を促します。◆ 豊かな自然や芸術文化に触れる機会をつくります。
地域、NPO等	<ul style="list-style-type: none">◆ 異なる世代が交流する様々な体験機会の創出を通じて、人間関係を形成する力を養い、基本的なマナーやルールなどを身に付けます。◆ 歴史と風土に培われた地域固有の文化や芸術を正しく理解し継承できるよう、積極的な参画促進を図ります。
学校	<ul style="list-style-type: none">◆ スポーツの意義や特性などに関する理解を一層深めるとともに、将来に向けてのスポーツ習慣を形成するため、発達段階に応じた育成を促進します。◆ 音楽や舞台芸術の鑑賞の充実を図るとともに、博物館や美術館の作品鑑賞等の機会を提供します。
企業	<ul style="list-style-type: none">◆ 保護者が家庭教育や地域活動へ積極的に取り組めるよう、職場での諸制度の整備や環境の充実に努めます。◆ 地域や学校との連携・協力により、スポーツや文化芸術に触れる機会を確保するとともに、地域のスポーツ・文化活動の活発化を支援します。

3 成人期

- 地域や職場など、スポーツ・レクリエーション活動を通して仲間や友人との健康的なライフスタイルを確立するとともに、家族でのスポーツの実践や自然体験の充実を図り、大人から子どもへとスポーツ文化の伝承を進めます。
- 社会的、経済的に自立する中で、文化・芸術に触れることを通じてこれまで培ってきた豊かな心や創造力を背景として、地域や国を超えた交流を促進するとともに、郷土の自然や歴史、伝統的な文化・芸術を次世代に伝えていきます。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家族との触れ合いを高めるような親子でのスポーツの実践や、家族での自然体験やボランティア体験の充実を図ります。 ◆ 豊かな自然や芸術文化に触れる機会をつくります。
地域、N PO等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 異世代間の交流機会の拡大や時代を担う人づくりの場をつくります。 ◆ 地域の自然や伝統文化の保存・継承に向けた取組を進めます。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保護者に対して情報を提供するとともに相談機能の充実を図ります。 ◆ スポーツ・文化活動のフィールドを提供します。
企業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家庭、学校、地域での活動に、保護者が積極的に関われる職場環境づくりに努めます。 ◆ 従業員の自己実現に向けた支援を行います。

4 高齢期

- 仲間や世代間を超えた人々の交流を確保するため、地域におけるスポーツ・レクリエーションの場に参加したり、ボランティア活動や趣味のサークルに積極的に主体的に関わる機会をつくっていきます。
- これまでの活動の再開や新しい分野へ挑戦する意欲を持ち、引き続き文化芸術やスポーツに親しむとともに、次世代の育成や地域での社会貢献に取り組みます。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 長い生活体験や人生経験から得られた豊富な知識や技能などを、家族に伝えることを通して、スポーツや文化に関わることの喜びや楽しさを家族と分かち合います。
地域、N PO等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康・体力づくりに向けて、地域の行事を始めスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりに取り組みます。 ◆ 次世代育成や地域の担い手の育成に関わることのできる場や機会をつくります。
企業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ これまで培った豊富な経験や知恵を、次世代の育成に向けて活用できる世代間交流の場をつくります。

第4章 戦略の推進

1 推進体制

昨年7月の釜石・橋野鉄鉱山の世界遺産登録、本年の平泉世界遺産登録5周年や希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催などを通じて醸成された県民の文化・スポーツに対する関心の高まりや参画意識を次の世代につなげ、本戦略の推進力としていくため、文化・スポーツに関する事務の知事部局への一元化を行うとともに、その事務を担う専担組織を設置します。

この推進体制の構築により、従来、取り組んできた文化・スポーツに関する施策の充実はもとより、各部局で実施する関連事業をコーディネートし、地域・NPO等と学校との連携の更なる促進のほか、健康づくりなどの保健・福祉分野や観光をはじめとする産業分野への政策間連携を進めるなど、各施策の磨き上げを図っていきます。

さらに、文化・スポーツが持つ多面的価値を社会的・経済的な力に深化させ、県民一人ひとりの個性と創造性が輝き、「住みたい」「訪れたい」と感じる地域づくりを進めていきます。

このため、文化・スポーツの振興を担う市町村・関係団体をはじめとした多様な主体と連携を図りながら、目指す姿の実現に向けて、庁内に各部局長等を構成員とする「岩手県文化・スポーツ事業推進本部（仮称）」を設置するなど、学校教育や文化財、生涯学習を所管する教育委員会と連携し、部局横断的な取組を戦略的に進めていきます。

さらに、文化・スポーツの振興のため、必要な環境の整備と財政上の措置を講じていくほか、文化・スポーツ振興に係る条例・指針の制定等も含め、推進体系の在り方について幅広く検討していきます。

2 多様な主体との協働

県民一人ひとりの文化・スポーツ活動への参加をはじめ、文化・スポーツの環境整備や支援体制の整備・専門的な指導人材の育成・活動の情報発信などについては、県・市町村・関係団体・企業などが協力・連携し、さらには県民運動的な盛り上がりを図りながら推進していくことが必要です。市町村、芸術文化協会、地域型スポーツクラブ等と身近な文化・スポーツの取組について連携を深めていくとともに、「岩手県文化芸術振興審議会」や「岩手県スポーツ推進審議会」をはじめ、文化・スポーツに係る専門的な知見を有する各種団体からの意見等を県の施策に反映させていきます。

また、文化・スポーツ団体等と学校部活動との交流機会の促進や、アーティスト・プロスポーツ等と地域との協働・連携体制の充実を図るなど、より長期的な視点のもとで、本県の文化・スポーツを担う人材の育成に取り組んでいきます。

さらに、ラグビーワールドカップ 2019TM 釜石開催及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成功をはじめ、「平泉の文化遺産」の拡張登録や「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けて、県として必要な推進体制を構築していきます。

